

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年7月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス(株)		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道		
所在地 (電話番号)	沼津市我入道江川5-1	(電話) 055-935-0631	
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成19年5月15日		

## 【情報提供票より】(19年4月23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤17人 非常勤3人 常勤換算5.65人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	RC造り 3階建ての1階~3階	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,500 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり850円		

### (4) 利用者の概要(4月23日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	7 名	要介護2	9 名		
要介護3	8 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団真養会田沢病院 なつニューロクリニック
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設4年目を迎えているホームである。全国展開を行う法人が運営し、やや大規模な3ユニットのホームであるが、地域とともに、地域に根付いたホームづくりを念頭に開設以降その関わりを大切に考えて取り組んできている。利用者本位のサービス提供を行うことを念頭に、職員は役割を十分に認識しながらも連携を図り、質の向上に向けて努力している。ホームの特性を十分に理解した上で、利用者や家族の関係を大切にしながらのさりげない支援が継続されて行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義について十分理解し、評価結果については全ての職員で確認し、改善内容については計画的に改善してきている。また、利用者本位のサービス提供を行うために、その内容を利用者や家族にも伝えてきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニットごとに全ての職員で取り組み、改めてこれまでの取り組みを振り返る視点にたつて自己評価に取り組んできた。改めて、抱える課題を認識する機会となっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、家族や他ホーム職員にも参加を呼びかけ、ホームの現状を伝えるとともに、より利用者本位のサービス提供に繋げることができるように活発に取り組んでいる。その内容は、記録にまとめ、全ての職員に伝えるとともに、職員会議でもそれについて意見交換している</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書等で苦情相談窓口を明確にし、利用者及び家族等に伝えていく。様々な意見や相談を受けられるように、玄関に意見箱を設置したり、定期的に家族アンケートの実施も行っている。利用者及び家族、地域住民に気軽に相談や話し掛けを行えるような関係づくりを目指している</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域根付いたホームづくりを開発意識して取り組んできた。運営推進会議への参画やホーム行事にも必ず地域自治会等を通じて参加を呼びかけている。地域住民との気軽なふれあいが行えるように日常生活の中でも取り組んでいる。また、ボランティア協力者の訪問も多い。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりがその人らしい生活を継続していけるように理念を掲げ、パンフやホーム内等に掲示している。運営推進会議上でもこれらの理念を確認し、その内容が理解されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議及び朝の申し送り時には、ホーム理念を全ての職員で唱和し、その内容の理解と実践に向けて継続して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の防災訓練や祭り等に参加し、地域住民等との交流を深めている。また、ボランティアの受入れやホーム祭りや行事の際にも地域住民に参加を呼びかける等、地域との付き合いを大切に考えている。	○	自治会活動にこれからも参加する等、これらの取り組みを継続、拡充して更なる地域に根付いたホーム運営活動に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価事業の趣旨を職員全体で確認し合っている。前回の評価結果内容についても職員で共有し、改善内容を確認し計画的、具体的に改善を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を適切に作成し、会議内容も全ての職員に周知している。推進会議メンバーには他ホーム職員も加え、交流や情報交換を行う手がかりとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者とは定期的に連絡連携を図り、行き来するような関係づくりを行っている。また、様々な情報を得るよう心掛け、室の向上に繋げるよう取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便り「はまかぜ」を毎月作成し、家族に写真入りで様子を知らせている。小遣いの出金明細等金銭管理も毎月報告し、必要に応じて電話連絡も行うようにしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等が気軽に意見を言えるような雰囲気づくりを行うとともに、玄関には意見箱を置いて意見、苦情を把握するよう取り組んでいる。また、定期的に家族アンケートを行う等、些細な思いや意見も把握するように努めている。その内容は、全ての職員にも伝えられるようになっている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者が安心して暮らせるよう、職員の移動や離職は極力抑えるようにしているが、やむを得ずそうなった場合は入居者に影響が出ないように十分留意している。その影響についても十分理解している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の評価を定期的に行い、サービスの質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。内外の研修実施や外部研修の情報を職員に伝えて積極的な参加を促している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>実際に他ホームの見学機会を設けている。互いのホームを訪問し合い、交流することで職員同士の勉強会を行う等、サービスの質の向上に意欲的に取り組んでいる。</p>	○	<p>今後もこれらの取り組みを継続して行い、情報交換を通じて利用者本位のサービス提供に繋げて欲しい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームのユニットリーダーとケアマネが利用希望者の自宅を訪問し、利用希望者と十分に関わり、家族からも意見や意向を把握した上で、利用決定を行っている。また、事前にホーム見学等も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とともに過ごすように心掛け、利用者の充実した生活が送れるようにさりげない支援に徹している。利用者信頼できる関係づくりを大切に考えており、職員地震も利用者から学ぶ姿勢をもって支援にあたっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切に考え、希望ができる限り叶えられるように努力している。利用者の意向を把握するとともに、その状況についても定期的に確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の会議で、本人や家族の意見を取り上げ、介護計画に反映できるように取り組んでいる。職員同士の話しやすい関係のなかで、活発な意見交換が行われ、その記録も詳細に残されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が無くとも3ヶ月に一度の見直しを行なっている。見直しが明確になるような計画表も作成し、確実な見直しが行われるように工夫している。また、変化等があった場合には、速やかに変更している。ユニットごとの会議も行われ、現状に即した介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の意向や希望に即したサービスを提供するようにしている。事業所の多機能を活かした取り組みを行うように意識して取り組んでいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族との連絡を密にして、かかりつけ医への受診の際の付き添いを行っている。また、2週間に一度の往診が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期に向けたケアについてはその必要性と意義について理解し、検討を深めている。利用者や家族の思いの把握と、かかりつけ医との連携を図っていくこととしている。	○	利用者や家族によりその思いはそれぞれ異なり、ホームとしてもそれに取り組んでいる。今後もその検討を深め、その方法等について継続して検討して欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを十分に理解して取り組んでいる。排泄介助場面でやや大きな声も聞こえたが、その重要性については管理者及び職員がともに取り組んでいる。	○	言葉掛けは利用者により異なったりし、難しい面も多いが、今後も利用者の尊厳やプライバシーにどのように配慮すべきかの議論を継続して行って欲しい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重した支援が行われている。利用者がその人らしく生活することを支援するという認識がさえている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は調理室で行っているため、職員は利用者とともに準備と片付けを行っている。職員も利用者とともに食事を摂りながら、その時間を大切に楽しくするように配慮している。	○	法人栄養士に通常の献立にプラスして、特色ある食事作りがされている。今後も利用者の嗜好を把握し、楽しい食事時間にできるようにならるるに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるが、原則として午後からの日中の入浴となっている。できる限り利用者の希望を尊重しているが、入浴を楽しむことを踏まえて定期的に検証して欲しい。	○	利用者本位のサービス提供を行うホームの基本的な考え方をもとに入浴方法について定期的に検討して欲しい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの応じて役割づくりが自然に行なわれている。生活歴や過去の経験を把握し、利用者の楽しみごとを探るように心掛けている。ホーム内の飾り付けも利用者が主体的に行ったり、楽しみごとの機会を多く提供するように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの意向を踏まえて、外出する機会を多く提供している。買い物や散歩、ドライブ、外食と積極的に行うように心掛けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一部のユニットは利用者の状況で施錠する必要がある。施錠の必要性を利用者及び家族にも説明している。	○	入居者の状況で施錠する現状も理解できるが、その弊害についても再認識し、できる限り施錠しないように検討して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議でホームの様子や状況を伝えるとともに、自治会にもそれらを伝えている。防災訓練も定期的に行い、地域の防災訓練にも参加する等、地域住民の協力が得られるように日常的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人栄養士の献立で、栄養摂取やバランスは問題無い。摂取量は食事、水分ともにチェック表に記入して把握している。一人ひとりの状況に応じたきざみ食や粥にする等の工夫がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、廊下、浴室、トイレ等も広く造られている。壁面には、利用者の手作り品や季節を感じさせる装飾が施され、可定期的な居心地良く過ごせるように工夫されている。利用者も共有空間で思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には、使い慣れた家具や装飾品、趣味の物品等が持ち込まれ、個性のある居室となっている。また、居心地よくなるように職員が側面的に支援している。		